

【評価実施概要】

事業所番号	3071200491
法人名	社会福祉法人皆楽園
事業所名	グループホーム友愛
所在地	〒649-6424 和歌山県紀の川市畑野上272 (電話) 0736-77-2277

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年3月30日	評価確定日	平成22年5月14日

【情報提供票より】(平成 22 年 2 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 11 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 9 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,800 円	水道光熱費(日額)	330 円	
敷金	有() 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		900 円	

(4)利用者の概要(2 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低 79 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	榎本医院、西歯科
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地元和歌山で30年近くに安心できる介護・福祉サービスを展開してきた皆楽園を母体とする当該ホームは敷地内に特別養護老人ホームとデイサービスセンターが隣接されています。日々の生活の中で近隣の方におすそ分けを頂いたり、法人の夏祭りが地域の一大イベントとして開催されるなど地域との関わりを大切にしたり取り組みが見られます。また議事録や様子報告書など書類が整備されており、職員間で検討を重ね誰が見ても解りやすい様式を作り上げています。利用者の情報を共有し職員間のコミュニケーションを図ることで全員が方向性を定め、家族の背景をも考慮した支援方法で利用者の毎日を支えています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受けてケアプランの記入方法を見直し変更するなど、改善に努めています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価票は、前回のものをミーティングの際に見直し、個々の内容をチェックして変更部分を書き直してもらい、管理者が取りまとめて作成するなど、全員で取り組まれています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に家族、区長、市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、法人職員、管理者等が参加して開催されています。会議ではホームからの報告がなされる他、地域との関わりや感染症の予防対策等に付いて話し合われています。また運営推進会議を通じて地域の情報や行事への協力を得ることが出来るなど、有意義に活用されています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年に一度、家族懇親会を開き直接意見を聞いたり、面会時に話を聞くよう努めています。また書面に内外の苦情機関を掲載し、家族がより意見を言いやすい体制を整えています。家族の要望により職員の顔写真と名前をリビングに掲示するなど、出された意見はすぐに対処したり、場合によっては職員間で話し合い、結果を家族にも報告し、運営に反映させています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	近隣の方とは挨拶を交わしたり、花や野菜の差し入れを頂くなどの付き合いがある。地域のふれあい祭りに参加したり、保育園とも交流を図っています。また敷地内で毎年開催される法人主催の夏祭りは域の一大イベントでもあり、家族や地域、ボランティアをも交えて交流を図っています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームが地域密着型サービスとして位置づけられた年に法人の職員が集まり話し合い、法人のグループホーム共通の理念を作り上げている。地域の中で家族のように共に暮らしていくことを目的とし、職員間で方向性の統一を図っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はリビングの誰からも良く見える位置に掲示され、職員は常に自分だったら、自分の親だったらどう思うかを自問自答しながらケアにあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方とは挨拶を交わしたり、花や野菜の差し入れを頂くなどの付き合いがある。地域のふれあい祭りに参加したり、保育園とも交流を図っている。また敷地内で毎年開催される法人主催の夏祭りは地域の一大イベントでもあり、家族や地域、ボランティアをも交えて交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票は、前回のものをミーティングの際に職員間で見直し、個々の内容をチェックして変更部分を書き直してもらい、管理者が取りまとめて作成している。また前回の評価を受けてケアプランの記入方法を見直し変更するなど、改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に家族、区長、市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、法人職員、管理者等が参加して開催されている。会議ではホームからの報告がなされる他、地域との関わりや感染症の予防対策等に付いて話し合われている。また運営推進会議を通じて地域の情報や行事への協力を得ることが出来るなど、有意義に活用されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者は運営推進会議にも出席頂き、入居希望者についての問い合わせや相談事があれば出向き、解決に向けて協力を頂いている。また地域や研修の情報をもらうなど、協力体制が構築されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書と一緒に職員は手書きで様子や健康状態、行事予定等を書いた報告書を、写真を添えて家族に郵送している。また毎月の支払いは面会を兼ねて持参してもらっており、その際にも様子を伝えたり、預かり金の収支報告を行い、確認印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、家族懇親会を開き直接意見を聞いたり、面会時に話を聞くよう努めている。また書面に内外の苦情機関を掲載し、家族がより意見を言いやすい体制を整えている。家族の要望により職員の顔写真と名前をリビングに掲示するなど、出された意見はすぐに対処したり、場合によっては職員間で話し合い、結果を家族にも報告し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者と面談する機会があり、意見や悩みを相談したりしている。また職員の様子を見て声をかけ話を聞くように努めたり、希望を聞きシフト調整するなど、公私ともに何でも言い合える関係性を築いている。私的な離職は無く、法人内の異動のみで馴染みの職員による支援を安心して受けることが出来ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修計画が確立されており、全体研修には参加できる職員が順次参加している。また法人内のグループホーム研修が別に設定されており、外部研修に参加した職員が研修後に講師となり他の職員に伝達研修を行うことを目的としている。伝達研修以外にも会議で報告したり、資料を回覧し周知を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者のネットワークであるケアネット和歌山の研修会に参加し、情報を得たり意見交換を行っている。また法人の他ホームとの交換研修を通じ、他のホーム運営を知る機会を確保している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人、家族に見学をお願いしている。また法人施設からの利用希望者には職員が出向きコミュニケーションを図ったり、待機中に遊びに来てもらうなど、馴染みの関係作りを心がけている。入居後は家族や以前のケアマネージャーに訪ねてもらうなどして徐々に馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から食事作りや野菜作りの際に知恵を頂いたり、会話の中で昔の風習を教えてもらっている。利用者同士の会話やしぐさにも優しさや思いやりが感じられ、時には職員を手助けしてくれるなど、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から思いを把握したり、利用者の行動や表情からも意向や希望を把握している。情報はセンター方式のアセスメントを用い利用前に家族に記入してもらい、入居後は職員が定期的に字の色を変え追記情報の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や面会時に聞いた家族の希望をもとに、毎月のミーティングの際に行うカンファレンスで話し合い、ケアプランを作成している。カンファレンスに参加できない職員の意見は事前に口頭で意見を求めている。また、利用者の状態の変化が会った際には、主治医を受診し相談し連携を図り、ケアプランに反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは毎月モニタリング、評価し3ヶ月毎に見直されている。状態に変化がある場合はその都度見直している。日誌から特記事項を支援経過に転記し、モニタリングに繋げている。ケアプランは生活状況表にはめ込んで、チェックし、ぶれないケアを実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ほとんどの通院介助や個々の希望による嗜好品の買物に同行している。また利用者の希望する馴染みの美容院へ出かけられるよう家族へ協力をお願いしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員の利用者がが以前のかかりつけ医を継続して利用し、緊急時には往診をお願いしている。何かあればそれぞれのかかりつけ医に連絡し、指示を仰いでいる。通常の通院介助は職員が行い、必要に応じて総合病院等への受診は家族をお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの方針を契約時に家族に説明し、医療を必要とする時やホームでの入浴が困難になった時点での退居もあり得ることを伝えている。職員間でも方針を共有し、状況が変化する中で家族や主治医と相談し、利用者にとって一番良い方法を検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけには細心の注意を払い、穏やかで優しい声かけを心がけている。不用意な言動が見られた場合は職員同士で注意し合い、利用者同士の心ない発言にも職員が間に入り配慮している。個人の記録は事務所内の鍵のかかる書庫に適切に保管され、記録する場合も他の目に触れないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝も個々に違い、朝食もそれぞれに摂っている。その日その時の気分に合わせ、ドライブや散歩に誘い気分転換したり、眠れない時は夜食を用意し気分が落ち着くまで寄り添うなど支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	担当の職員が冷蔵庫の中身を見て利用者に希望を聞き、献立を立てている。3日に一度買物に出かけ、下ごしらえや盛り付け、お盆拭きを一緒に行っている。時には菜園の野菜が食卓に上ることもある。利用者と職員は一緒に同じ食事を楽しみ、会話が弾む食事風景が見られる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴の準備を行い、利用者の希望に沿って支援しており、毎日入浴する利用者もいる。時間帯は午後からの入浴を予定しているが、朝や夜に希望があった場合、体制が整えば入浴可能である。入浴拒否が見られる利用者に対しては、1番風呂を勧めたり、声かけのタイミングを工夫して入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花や野菜作りに力を発揮してもらったり、縫物をお願いしたりと得意分野を活かせるような支援をしている。トランプや風船遊び、カラオケを楽しまれたり、職員と酒を買いに出かけ晩酌を楽しむなど、個々の希望に沿って支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や天気の良い時には、散歩や買い物に出かけている。またホーム周りの草むしりをしたり敷地内のデイサービスのカラオケ、神社仏閣の散策に出かけている。行事としての遠足や花見、ドライブを楽しみ、外食にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解し、ホームでは鍵をかけないケアを実践している。「ちょっと待って」ではなく、その時に利用者の希望に添えるよう心がけ、外に出たような素振りが見られたら、散歩やドライブ等に誘い気分転換を図っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を隣接の法人の施設と合同で実施している。1度は消防署立ち会いのもと夜間を想定し避難経路を確認したり、設備点検を行い、1度は法人のビデオ研修にも参加している。また、事業所独自のビデオ研修や避難訓練、防火管理者の研修にも参加を予定している。敷地を災害時の一時避難場所として地域に提供を申し出ており、運営推進会議でも議題に挙げ、地域の方にも協力をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事は毎回記録に残し、水分摂取量は必要に応じて記録し、時間毎にさりげなくお茶を飲んでもらっている。また食材の種類を多く用いるように心がけ、利用者の状態に応じて栄養補助剤等を使用している。3ヶ月に一度法人の管理栄養士に献立表を見せ、栄養バランスについてアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に花や野菜を植えリビングにも花を飾り、職員手作りの壁飾りや小物からも季節を感じることが出来るよう配慮している。また玄関にベンチを設け日なたぼっこを楽しんだり、フロアのソファや畳コーナーで横になったりと、思い思いの場所で寛ぐ事が出来ている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく居室のドアは幅が広く、車椅子での出入りがしやすい造りとなっている。ホームではベッドも3種類用意し、個々の利用者の状態に合った種類のものを使用してもらっている。利用者は自宅から家具やテレビ、テーブルや椅子、遺影や家族の写真等を持参し、居心地よく過ごされている。		